

「AIS・国際VHF機器展示・説明会」を小浜市で開催 ～小浜湾周辺の漁業、レジャー船関係者約50名参加～



海上保安庁第八管区海上保安本部の説明の様子

総務省北陸総合通信局（局長 濱島 秀夫）は、平成29年9月13日（水）、小浜市川崎の小浜市漁業協同組合で、小浜湾周辺の漁業・レジャー船関係者を対象とした「AIS・国際VHF機器展示・説明会」を開催しました。機器展示・説明会は、北陸情報通信協議会（会長 久和 進 北陸経済連合会会長）の共催、海上保安庁第八管区海上保安本部、福井県、小浜市漁協他の後援により実施したものです。開催は、昨年の石川県七尾市に続き2回目となります。

AIS（船舶自動識別装置）は、船舶の位置、針路、速度等の情報を自動的に送受信するシステムで、これにより他船の針路を予測することができます。国際VHF（船舶共通通信システム）は、全世界共通の無線電話であり、搭載している全ての船舶間で通信が可能となります。これらを搭載することにより、船舶同士が衝突する海難事故を防止することができます。

機器展示・説明会では、初めに、北陸総合通信局中野佳胤航空海上課長から、「AIS、VHFの有効性と普及状況」として、AIS、国際VHFを設置することで、船舶同士の針路を予測したり、通話による意思疎通で海難事故防止が図られることや普及状況などを説明しました。

次に、第八管区海上保安本部高野昌浩交通部長及び中野明弘安全対策調整官から、「船舶の事故防止」として、若狭湾周辺における漁船事故の多い時間帯や防止策について説明いたしました。

最後に、AIS・国際VHFの無線設備を製造販売している各メーカー担当者から、ブースに展示してある機器の特徴を順次説明しました。

参加者から、AISやVHF使用時の大型船と小型船で、通信可能距離が違う理由や、AISを設置している小型船を大型船はどの程度の距離から認識しているか質問されるなど、関心の高さがうかがえました。

説明終了後、参加者は各メーカーのブースへ移動し、実際にデモ表示しているレーダー画面を見たり、機器を触りながら性能を確認する質問を行ったりと、熱心に情報収集を行っている様子でした。

北陸総合通信局では今後も、AIS・国際VHFの普及に取り組んでまいります。



機器展示ブースの様子